いきいきまえばし人

車いすソフトボール国際大会で優勝

平井 修さん・43歳（右）
上新田町

大谷 颯さん・27歳（左）
上小出町二丁目

日本代表としての役割を果たす

8月に米・シカゴで開催された車いすソフトボールの国際大会で、日本が優勝を果たした。代表選手には本市在住者も選ばれた。平井さんと大谷さんだ。2人は平成29年から車いすソフトボールを始め、競技歴は6年目。「この競技は大人や子ども、性別も関係なく、誰もが楽しめることが魅力の1つ」と口をそろえる。

平井さんは「2歳の頃に遭った交通事故で車いす生活になりました。手にも障害があって、遠くまで打てません。その分速く走れるように、練習では走り込みに力を入れています」と語る。「私は中3まで野球をしていましたが、病気で車いす生活になって諦めました。それでもまたグラウンドで選手としてプレーできて、うれしく思います」と大谷さんが続ける。

2人は「代表選手に再び選ばれることと、国際大会の2連覇が当面の目標」と意気込む。

「日本代表として結果を出すことはもちろん、車いすソフトボールを広めることも使命だと考えています」と大谷さん。

平井さんは「私はパラスポーツ選手として収入を得て暮らしています。障害があっても、頑張れば日本代表にだってなれるんだということを示して、同じ境遇にある人の励みになれたら」と目を細める。

競技人口の増加や、やがてはパラリンピックへの競技採用を目指して、2人の活躍は続く。

思い合う 支え合う 認知症

Vol.4
アルツハイマー月間

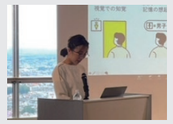
認知症は誰もがなり得る病気。安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて、自分ごととして考えていくことが大切です。今回のテーマは「アルツハイマー月間」です。

「世界アルツハイマーデー」である9月21日を中心に、全国各地で認知症の啓発の取り組みが実施されました。本市では、臨江閣のオレンジ（認知症啓発のシンボルカラー）ライトアップや市立図書館での認知症関連著書の特設コーナーの設置、県認知症アンバサダー・あかぎ団による認知症の人への対応の心得を紹介する動画公開などを実施しました。

9月17日には認知症普及啓発講演会「認知症～私の見えている世界　あなたの見ている世界」をオンラインで生配信し、書籍「認知症世界の歩き方」の制作に携わった青木佑さんが講演しました。認知症の人が見ている世界のイメージをアニメーションで紹介。認知症の人が抱える不安をより具体的に想像し、自身に置き換えて考える貴重な機会となりました。

また、トークディスカッションでは、あかぎ団・礒干彩香さんを司会に、福祉の現場で活躍する登壇者より、日頃の経験から活発な意見交換がされました。その中で「認知症になると、話す内容も認知症のことばかりになってしまう。人と人としての話がしたい」という認知症の人の言葉が、深く心に残っている」との話がありました。認知症になっても誰もがその人らしく生きていけるよう、認知症の人の気持ちに寄り添いながら周りの人ができる支援について、当事者とともに考えていくことが大切であるとのメッセージが投げかけられました。

青木佑さん、三和会・三俣和哉さん、介護福祉系YouTuber・髙橋まちゃぴろさんによるトークディスカッション



問 長寿包括ケア課
☎ 027-898-6133

認知症ケアパス
認知症に関する情報を掲載しています

クローズアップ CLOSE UP

市民のまつり引き継ぐ

10月8日・9日に4年ぶりのリアル開催となる前橋まつりを開催しました。立川町大通り周辺では、だんべえ踊りや鼓笛吹奏楽パレード、みこしなどを実施。例年と比べて規模は縮小し開催したものの、2日間とも多くの人々が参加し、伝統の祭りを後世へ引き継ぎました。

赤城山で健脚競い合う

9月25日、まえばし赤城山ヒルクライム大会を開催しました。約1,700人の参加者が県前橋合同庁舎をスタート。ゴールの赤城山総合観光案内所まで全長20.8km、標高差1,313mを駆け上がる中、沿道からは3年ぶりのリアルレースに拍手や声援が送られました。

前橋の歴史ひもといて

前橋藩主松平大和守家顕彰祭を9月23日から10月2日まで開催しました。期間中は臨江閣で松平家家宝など貴重な刀剣類や資料を展示。最終日には松平家の名宝・式部正宗の復元記念講演会や前橋藩に扮した川越藩火縄銃鉄砲隊による演武を楽歩堂前橋公園で実施しました。